

【今週の注目疾患】

《結核》

9月24日から9月30日は、『結核・呼吸器感染症予防週間及び非結核性抗酸菌症啓発週間』です¹⁾。

○結核

今でも国内において、毎年1,400人以上が命を落としている感染症です。新登録結核患者は、高齢者に多く、全国ではおよそ6割が60歳以上となっています。また、若年の外国生まれの患者の割合が増加しており、20代の新登録結核患者の9割を占めています。2週間以上咳や痰、微熱や体のだるさが続く場合は、重症化と感染拡大の防止のために、早めに医療機関を受診しましょう^{1,2)}。

○呼吸器感染症

インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症などがあります¹⁾。今年は、既にインフルエンザが流行入りしました³⁾。感染防止のため、マスク着用を含む咳エチケット、手洗い、換気等の基本的な感染対策を行いましょう¹⁾。

○非結核性抗酸菌症

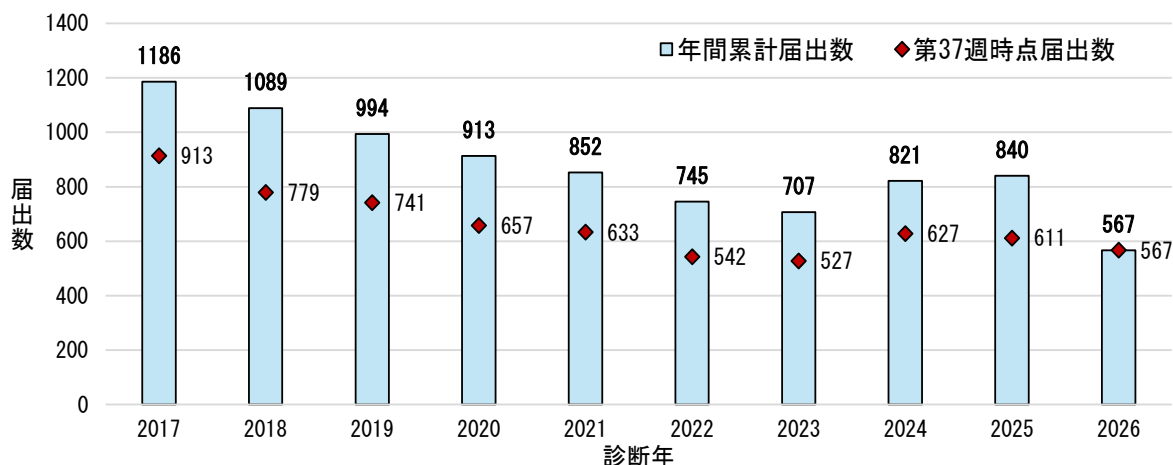
環境中に広く存在する非結核性抗酸菌（non-tuberculous mycobacteria: NTM）によって発生する感染症です。長引く咳、痰、発熱といった症状が代表的です。症状がある場合は、早めに医療機関を受診しましょう^{1,4)}。

結核は、2026年第37週に県内医療機関から20例の届出があり、累計567例となった（図）。

567例の概要は以下のとおり。

性別では、男性298例（53%）、女性269例（47%）であった。年代別では、80歳以上142例（25%）、20代118例（21%）、70代75例（13%）、60代62例（11%）の順で多く、60歳以上が約半数を占めていた。病型別では、患者（有症者）358例（63%）、無症状病原体保有者209例（37%）であった。

図：2017年から2026年までの千葉県内結核届出数（2026年第37週時点）



結核は、結核菌によって発生する感染症である。咳、痰、発熱、呼吸困難等、風邪のような症状を呈することが多いが、腎臓、リンパ節、骨、脳等身体のあらゆる部分に影響が及ぶことがある。特に、小児では症状が現れにくく、全身に及ぶ重篤な結核につながりやすいため、注意が必要である²⁾。

患者に対する治療は、一定期間毎日複数の薬を服用する。感染しても発症していない無症状病原体保有者（潜在性結核感染症患者）では、一定期間薬を服用することで発病を予防することができる⁵⁾。

※自己判断による不適切な服薬の中断は結核菌の薬剤耐性化を招き、治療に失敗することがあるので注意が必要です。

■参考・引用

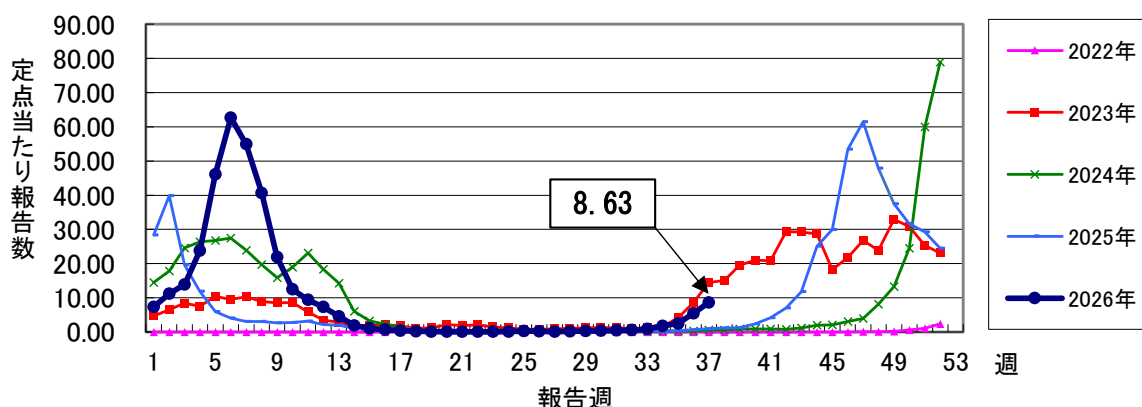
- 1) 千葉県健康福祉部健康福祉政策課：結核・呼吸器感染症予防週間及び非結核性抗酸菌症啓発週間
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/kekkaku/tbweek.html>
- 2) 厚生労働省：結核
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/kenkou/kekkaku-kansenshou03/index.html
- 3) 千葉県健康福祉部健康福祉政策課：インフルエンザの流行について
<https://www.pref.chiba.lg.jp/kenfuku/press/2026/influ-260826.html>
- 4) 厚生労働省：非結核性抗酸菌症（NTM 症）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/kenkou/kekkaku-kansenshou/ntm.html
- 5) 公益財団法人結核予防会：結核と呼吸器感染症
<https://www.jatahq.org/wp-content/uploads/2026/07/6c9f12e9da429389040cb91dfa480cc7.pdf>

《インフルエンザ》

2026年第37週における定点当たり報告数は前週の5.49人から増加して8.63人となった（図）。

予防するための有効な方法としては、(1)こまめな手洗い、(2)十分な休養とバランスの取れた栄養摂取、(3)室内ではこまめに換気、(4)人混みや繁華街への外出を控える、(5)適度な湿度の保持、(6)ワクチン接種、が挙げられる¹⁾。

図：千葉県のインフルエンザ定点当たり報告数(2022年から2026年第37週)



■参考・引用

- 1) 千葉県健康福祉部健康福祉政策課：インフルエンザから身を守ろう
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/influenza/influenza-yobou.html>